

インドネシア駐在員レポート ～新首都「ヌサンタラ」視察レポート～

インドネシアでは国内外から注目を集めているトピックとして「首都移転」があります。2026年1月、約1年3カ月ぶりに新首都「ヌサンタラ」を視察しました。本レポートでは、首都移転の進捗状況や現地の実態および日系企業の参入可能性などについてお届けします。

◆新首都ヌサンタラとは

「ヌサンタラ（ジャワ語で『群島』の意味、略称：IKN）」は、ジャカルタの北東約1,200キロ離れたカリマンタン島東部に位置します。野生のオランウータンが住むジャングルの一部が切り開かれ、民間資金を含め約466兆ルピア（約4兆7,000億円）の事業費を投じ、総面積256,142haを開発する計画です。

2019年に計画発表、2022年に着工、2024年より段階的に移転が進められています。2028年に「政治上の首都」を移転し、2045年の建国100周年に移転を完了させることを目指しています。



◆ビジョン・コンセプト・KPI

【開発ビジョン】

World Class city for all
(すべての人々のための世界クラスの都市)

【3つのコンセプト】

- ① Forest city (総面積の75%がGreen area)
- ② Sponge city (水循環システム、雨水給水等)
- ③ Smart city (ICT、データマネジメント活用)

【KPI】

8分野24項目 (自然と共生、ダイバーシティ、ネットゼロエミッション、貧困対策等)

◆開発計画

【新首都および周辺を9つの目的別に開発】

- ①政府コアエリア ②経済・金融エリア
- ③再生可能エネルギーエリア
- ④観光・レジャーエリア
- ⑤教育・サービスエリア
- ⑥イノベーション・研究エリア
- ⑦貿易・物流エリア
- ⑧農産業エリア ⑨水産・農業エリア

◆産業クラスター開発

【6つの産業クラスター開発】

- ①次世代再生可能エネルギー
- ②医薬品 (高付加価値ジェネリック)
- ③持続可能な農業
- ④エコツーリズムと健康
- ⑤先端化学品
- ⑥低炭素エネルギー

【達成に向けた2つの手段】

- ①スマートシティとデジタルハブ
- ②21世紀型の教育



(新首都「ヌサンタラ」全景)

◆現在の投資・開発状況（2026年1月時点）

【総投資額】

65.3兆ルピア（約6,040億円）

【国家予算推移】

2024年度：43.3兆ルピア（約4,000億円）

2025年度：14.4兆ルピア（約1,330億円）

2026年度（現時点）：6兆ルピア（約550億円）

【周辺人口】

約147千人 ※2045年目標：190万人

【開発状況】

政府コアエリア（大統領宮殿等の中央行政地区）を最優先で開発

【主な外国投資（予定含む）】

外国企業の投資が進む中、日本企業の多くは関心を示しつつ、慎重に投資可能性を検討



（建設中の高速道路）

中国やロシア	複合商業施設、高級レジデンス	UAE	オフィス、ショッピングモール、モスク
オーストラリア	インターナショナルスクール	シンガポール	太陽光発電所
フランス	ホテル（5つ星ホテル）	日本	エレベーター、エスカレーター、エアコン、トイレ等

◆新首都の様子①：新首都までの道のり

新首都までは、近隣のバリクパパン市の空港から車で向かいます。いまだ高速道路は途中までしか開通しておらず、曲がりくねり、凸凹の悪路を2.5時間程進むとヌサンタラに辿り着きます。道中、ジャングルの中に原住民が生活する中、新たな道路や橋梁等のインフラ整備が進む様子が見られます。整備されたばかりの道路がすでに凸凹なのはインドネシアならではの様子です。

また、新首都から車で20分程の場所に新しいヌサンタラ空港がありますが、現在は大統領や大臣等のVIP専用で民間人は使用できず、2027年に商用化が検討されています。



（新首都への道中）



（ヌサンタラ空港）

◆新首都の様子②：大統領宮殿

大統領宮殿および両側の中央官庁は完成。前回視察時（2024年10月）と比べると、周辺道路が整備され、開発エリアが拡大し、シティホール等の新たな建物もでき、街づくりが進展している様子が見られます。大統領宮殿は、すべてインドネシア国産材を使用した豪華絢爛な造りであり、実際に大統領や大臣等の閣僚級会議で使用されています。



(大統領宮殿の全景・右は著者)



(宮殿内部)

◆新首都の様子③：公務員住宅

公務員住宅の一部が完成し、入居が開始しています。部屋は、家族向けの3Bed roomですが、現状では新首都で働く単身者3人が相部屋で使用しています。完成後間もないですが、すでに内外装にクラックや接合不良が散見されるのはご愛嬌です。



(外観)



(部屋)



(クラックや接合不良)

◆新首都の様子④：ホテル

新首都には、ホテルが2棟あります。1棟は高級ホテル「スイスホテル」、もう1棟は大衆向けのコンテナホテル「QUBIKA BOUTIQUE HOTEL NUSANTARA」です。

視察時では、コンテナホテルに泊まりましたが、1泊朝食付1万円弱と手頃で、部屋の空調や遮音性は問題なく、リネン類にも目立った汚れなく、害虫が発生することもなく快適でした。

ただ、最低限の設備しかありませんので、視察の際には、高級ホテルをお勧めします。



(コンテナホテル外観)

◆新首都の様子⑤：コンビニ、レストラン

新首都には、ローカルコンビニ（Indomaret、Alfamart）があり、最低限の買い物はできますが、スーパーマーケットがありません。新首都の住民は、本当に必要な物はバリクパン市等の近隣の街に買い物に行きます。

レストランは、インドネシア料理を提供するお店が数件あります。残念ながら、お酒の提供はありませんので、呑兵衛には厳しいです。



(コンビニ)

◆さいごに

①新首都の今後の見通し

首都移転は、長期的な国家プロジェクトです。足下では予算の縮小や計画の遅延はありますが、2028年の政治上の首都移転、そして2045年の移転完了に向けて開発は進められる見通しです。

②宮城県や東北地域との親和性

インドネシア政府が掲げる産業クラスターや開発計画には、農林水産業をはじめ、宮城県や東北地域との親和性が高い分野があり、産学官の幅広いセクターで協業の可能性があります。

③日系企業の参入可能性

インドネシア政府が日系企業に期待する「スマートシティ技術（AI、IoT、5G、モビリティ等）」や「森林の利活用」および「9つの開発テーマ」に参入可能性があります。

新首都関連の投資にご関心のある際には、お取引のある当行本支店、またはアジアビジネス支援室へお気軽にお声掛けください。

(インドネシア駐在 伊藤 祐史)

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。